

石狩小学校校舎利活用案

本町の未来を考える会

狙い：「本町地区の再生」。その起爆剤としての集客施設への活用。

本町地区は過去の歴史遺産がどんどん失われ、観光エリアとしても魅力を失いつけている。わずかに残された歴史遺産も有効な活用がなされず、維持もままならない。そのためさらに魅力減少の悪循環に陥っている。全国レベルの優れた自然も効果的なアピールがなされず、その貴重性と魅力の認知が広がらない。地域としては住民の減少、超高齢化によりマチとしてギリ貧状態であり、マチ自体が生気を失い、かつての栄華の片鱗さえ感じられない。

今回の石狩小学校の閉校決定は地元にとっては、言うなれば自力再生の道が絶たれたとも言える。過去のこのマチの姿を記憶している人は皆、「まったく昔の面影はなくなった」と口をそろえる。現在のマチは地元民の元気が見えず、また、観光地としてのアピールが希薄で、観光客へのウエルカムマインドも見えずらい印象である。

しかし、石狩市の発祥の地は間違いなく「本町地区」であり、本町地区の活性化は「石狩市全域」への誇りの獲得につながる。今こそ、本町地区の魅力を凝縮した施設を作り発信、そして集客し、外部からの刺激を受けて、地元住民の誇り獲得を目指したい。

今回の「石狩小学校校舎の利活用」は、本町地区に残された最後のチャンスと言える。ぜひ、このチャンスを活かし、本町地区の観光活性化、地元活性化の道を歩んでいきたい。また、今回の「石狩小学校校舎」の活用をきっかけに、既存の各施設と有機的に連携し、相乗効果により総合的なマチの活性化を図りたい。（いしかり砂丘の風資料館、石狩観光センター、はまなすの丘公園ビジターセンター、石狩浜海浜植物保護センター、弁天歴史公園運上屋、石狩温泉番屋の湯、金大亭、石狩八幡神社、寺院等、石狩尚古社資料館ほか）。本町地区は先に述べたように、潜在的な魅力ポテンシャルは石狩市最高エリアでもある。従って、地域まるごと博物館（エコミュージアム）手法を具体的に援用し、全く新しい街づくりが可能である。

「人を呼び込む街づくり」

1、地元民が肯定できる街づくり

2、花川地区、緑苑台地区、榊川地区の人々に「札幌」ではなく、「本町地区」に足を運ばせ、消費してもらう街づくり

3、観光客に札幌のお膝元の「大先輩の江戸のまち」「奇跡の自然の残るまち」である石狩本町地区「イシカリ」を、穴場観光地としてアピールする街づくり

これらの課題に応える「石狩小学校校舎利活用」でなければならない。

具体的な活用案

1、石狩河口渡船「やはた丸」の展示、擬似渡船体験（実際の乗船時間10分間の映像および10の昔語りストーリー）

→堤防建設で失われた「船場町」の再現、氷橋の再現。

昭和53年まで運航されていた「石狩河口渡船」。道内で最も有名な渡船であり、シニア世代の郷愁を誘う。

（体育館の3分の2ほどを利用）

2、憧れの円形校舎教室での模擬授業体験・教室を児童が使用する状態そのままに保存、公開。

月一回程度の円形教室を会場とした「石狩本町歴史円形カレッジ」開講。円形校舎ファンによる、運営ボランティア組織を作る。

室蘭の「絵鞆小学校」の保存運動を方々との交流を図る。ほか、道内の円形建築ファンと連携してサミットを開催。

また、このカレッジは同時に「資料館運営ボランティア育成講座」としても運用。リタイア世代の徹底活用と生きがい創造を両立させる。

3、裸の画家 渋井一夫記念ギャラリー

（かつての白いアトリエのイメージで教室を使い展開）

遺族から寄贈された230点の作品を活用。（観光協会所蔵。現在は「りんくる」のスロープとはなますの丘公園ヴィジターセンター2階にてわずかに公開）

渋井氏デザインの観光ポスター類、展望台看板の展示。かつて石狩観光の目玉として紹介され続けていた「石狩画廊」の紹介。

4、彫刻家本郷新と建築家田上義也

世界的彫刻家・本郷新の代表作「無辜の民」と他2つある市内本郷新作品の紹介。

幻の最先端ホテル「石狩海浜ホテル」3Dムービー

(北海道を代表する建築家、フランクロイドライトの愛弟子、田上義也円熟期の傑作)。当時最先端リゾート建造物、その悲劇の顛末。

この二人の関わりと石狩との関わりについて(石狩浜の至近な場所に二人の代表作が存在)。

本郷新の大好きな石狩浜を見下ろせる場所、春香山の麓に「田上義也設計の本郷新アトリエ」が存在。

4、本町地区・昔写真ギャラリー(坂東氏、青木氏ほか)

テーマを設け、かつての魅力的なマチのシーンを再構成する。本町地区の巨大地図に写真を貼り付ける。

本町地区の実際の現場に、昔の写真と説明文を掲げるなど、博物館と現地との連動によってエコミュージアムの展開を図る。ガイドツアーへの展開も。

5、石狩百話ストーリー探検～

「石狩百話」という地元のアーカイブを活用する(石狩百話ミュージアム)

(石狩百話から本町地区が舞台のストーリーを選び、実際の現地はどうだったのかを展示する。また、定期的に「石狩百話探検隊」と称して、現地探訪フィールドワークを開催する)

「石狩百話」の巻末に舞台となった地域一覧がまとめてある。「本町地区」で35話、「全町」29話のうち16話が本町と関わる。

6、最後の石狩アイヌ、豊川重雄氏制作の干鯡の展示・マレク(モリ)など

石狩市には、かつて地元にあった「石狩アイヌ」、また、樺太から強制的に連れてこられた「樺太アイヌ」らの歴史を学ぶ機会、場所がない。

白老に2020年開館予定の「国立アイヌ民族博物館」の建設も進む中、石狩においても「アイヌ」関連展示は必要であろう。

7、井上传蔵、荒井金助、村山伝兵衛、ダルマ先生(鈴木信三)、飯尾円什、鎌田池菱などの歴史的な重要人物の紹介パネルおよび関連品の展示

(井上传蔵については出生地で秩父事件発生地埼玉県吉田町と終焉の地である北見市と連携を図る)

8、石狩浜海浜植物保護センター（石狩海岸自然センター）のアネックスとして、「マクンベツ湿原」と「市内防風林の自然」の解説エリアの設置。

9、「砂丘の風資料館（文化財課）」と「海浜植物保護センター（市民部環境保全課）」の両館ともホールがないため、大人数を集めてのレクチャーができない。また、「弁天歴史公園 運上屋棟（観光課・観光協会）」も講座を開く際に、町内会館である「弁天会館」を利用している。

その問題解消のための「レクチャールーム」の設置。定員80名程度。（ただし「弁天会館」を市の管理として積極的活用を図るなら、それも有り）

また、市内小中学校の宿泊学習に対応するために、能量寺はじめとする当エリアの4つのお寺の協力を仰いで、活用を図る。お寺も活用されることで活性化の一貫。

10、はまなすの丘公園のヴィジターセンターを「はまなすの丘公園の自然」を詳しく紹介する「本来のヴィジターセンター」として機能させ、同時に本町地区の文化施設を紹介する情報発信センターと位置付ける。「いしかり砂丘の風資料館」は「砂丘の風の資料館」と勘違いする人も多いので「石狩市博物館」と名称を変更し石狩小校舎は「別館」と位置付ける。

11、現在の資料館の収蔵品の保管庫は極めて手狭である。体育館の3分の1ほどを立体的に仕切り3フロア増設して床面積を増強。オープン収蔵庫とする（倶知安風土館で実施）。

12、魅力的なミュージアムショップ

「長野商店」を独立した店として運営する。当然、入館無料であるが、豊富で魅力的な商品を揃えて利益をあげる。

また、明治の商い体験など、簡単な参加型有料体験メニューを揃える。

ショップは当然、本館有料入館を促す情報発信を怠らない。また、別館（円形校舎）はじめとする、本町地区各施設へのアピールも行う。

〈補 足〉

■人を呼び込む本町地区活性化計画■

【現在の既存施設の魅力大幅アップを！】

- 石狩市観光センター（観光センター自体が観光施設となるアイデアを）
- はまなすの丘公園ヴィジターセンター（自然の紹介、石狩灯台資料、本町地区の他施設紹介）
- 歴史公園運上屋棟（本町地区の歴史関連の展示～弁天社と楽山居と句碑と運上屋について）
- いしかり砂丘の風資料館・長野商店（石狩市博物館）～別館と併せ抜群に面白いミュージアムへ！
- 海浜植物保護センター（石狩海岸ネイチャーセンター）～石狩海岸の特別な自然を訴求！

【新規施設～石狩市博物館別館（旧石狩小）】～本町地区の観光、歴史文化自然総括施設

【商業施設との連携を！】

- 番屋の湯 ●マウニの丘 ●いしかり亭 ●金大亭（明治13年創業） ●カミルレ/ザ・吉岡

【寺社などの連携も！】

- 石狩弁天社/石狩八幡神社 ●能量寺/曹源寺/法相寺/金龍寺 ●石狩尚古社資料館（以上、創建はすべて江戸時代！） ●楽山居（昭和12年）

【自然などをアピール】

石狩浜の自然はほとんどが「植生自然度10および9」という国立公園を凌ぐ貴重性を有している。それを全国に類のない「海浜植物保護条例」と、さらに「都市公園法」などを組み合わせ独自保護政策を打ち出していることは全国に誇るべき事実。「はまなすの丘公園ヴィジターセンター」の設置、さらに自然保護保全施設として「石狩浜海浜植物保護センター」の設立などの目を見張る実績は全国にアピールすべきことであり、石狩市民の誇りである。

- はまなすの丘公園 ●石狩灯台 ●石狩砂丘（海浜植物草原）
- あそび一ち ●渡船場跡地 ●南造船所跡地（廃船置場）

※「番屋の宿」問題の解決に向けて

建物の老朽化が進む中、なんとか解決への道筋をつける。本町地区への観光客を増加させて、「番屋の湯」の利用者数を積極的にバックアップ。施設拡張の必然性から株式会社 M&S スパプロジェクトに「番屋の宿」も併せて営業に使用してもらうよう導けないか。